

## ローマ人への手紙8章2節 「いのちの御霊の原理」

### 1A からだにある異なる律法

1B 心の律法

2B 罪の律法

### 2A キリスト・イエスにあるいのち

1B よみがえりのイエス

2B 留まることによる実

3B 御霊によるみことば

### 3A 解放を与える原理

1B 罪と死の原理

2B 肉における神の処罰

3B 内に満たされる律法の要求

### 4A 御霊の導き

1B 宗教の教え

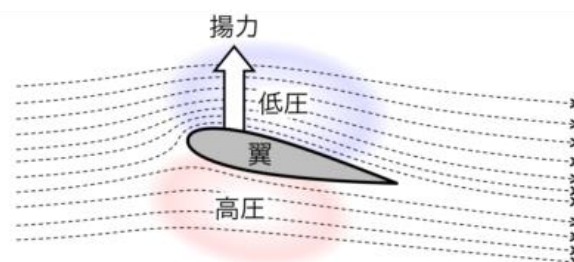
2B もうひとりの助け主

## 本文

ローマ人への手紙 8 章を開いてください。私たちの聖書通読の学びは、先週で 7 章まで来ました。今日は午後に、8 章を 1 節から 13 節までをじっくり見ていきたいと思います。今朝は、その中心的な箇所、8 章 2 節に注目します。「**なぜなら、キリスト・イエスにあるいのちの御霊の律法が、罪と死の律法からあなたを解放したからです。**」いのちの御霊の律法、あるいは法則、原理です。今朝は、「いのちの御霊の原理」が私たちの内に働いていることを見ていきます。

私たちの生きている自然には、かつてなら決して考えられなかった原理が働いていることを知っています。その最も典型的なのが、空気力学です。私たちは重力の法則を、だれもが知っています。物は重力によって地面に必ず落ちます。けれども、それとは逆の現象が事実、自然には働いています。その重力の法則に抗っているように見えるのは、空を飛んでいる鳥です。落ちないで空に浮かんでいるのです。

そこで、人々は空気力学というものを発見するようになりました。もっと具体的には揚力と言います。鳥の翼には、空気の流れがその上と下でできます。空気の流れが変わると、空気の圧力、空圧が変わります。翼の形や向きによって、翼の上のほうが空圧が低くなります。下のほうは



空圧が高くなります。そうすると、空圧が上と下で差が出て、下のほうが高くなっているのです、自ずと翼は上昇するのです。これを揚力と呼びます。<sup>1</sup>これを応用して、あの鉄の塊である飛行機が空中を飛ぶことができるのです。

イエス様は、「そんな雀の一羽さえ、あなたがたの父の許しなしに地に落ちることはありません。(マタ 10:29)」と言われましたが、イエス様はご自分の父が、揚力という法則を自然の中に入れておられているのを知っておられますから、その法則を神が取り除かないかぎり、地に落ちることはないとおられるのです。

私たちは、罪と死の支配について見てきました。罪が世界に入り、それで死が世界に入りました。けれども、神の恵みがあります。キリストによって、義といのちの支配がはじまりました。罪と死の原理は今も働いているのですが、その原理に抗い、むしろ勝利する原理がキリストにあって働いているのです。それはあたかも、重力の法則があるのに、空気力学の法則があり、揚力によって物が下から上に上がるのです。罪の中で死んでいた私たちが、よみがえり、義の中に生き、いのちを得るようにされたのです。それが、「いのちの御霊の原理」です。

## 1A からだにある異なる律法

### 1B 心の律法

私たちは前回、「心では神の律法に同意しているのに、自分が肉である」という問題を 7 章で見ました。パウロは、律法が霊的なもので、貪ってはならないという戒めにも心から同意していることを知っていました。ところが、自分がしたいと願っていることはせずに、むしろその憎んでいることを行っています。ペテロのことを、イエス様が言われましたね。「霊は燃えているが、肉は弱いのです。」自分が御霊によって新しく生まれて、心は神に従いたいと願っていても、自分の内にそれを守る力がないのです。

### 2B 罪の律法

パウロはこれを、「7:23 からだには異なる律法がある」と言いました。神の律法があつて、それに同意している心の律法があります。けれども、からだに別の律法、あるいは原理と言ったらよいでしょう、原理が働いていて、からだは罪の律法あるいは原理の虜にしているのです。こうしてがんじがらめになっていて、パウロは、「7:24 私は本当にみじめな人間です。だれがこの死のからだから、私を救い出してくれるのでしょうか。」と叫んでいます。

けれども、パウロは最後に、25 節ですが「私たちの主イエス・キリストを通して、神に感謝します。」と言っていますね。自分は、がんじがらめになっているのですが、主イエス・キリストが自分をこの縄目から解放してくださったのです。それが、さらにまた別の律法、あるいは原理と言ったほう

---

<sup>1</sup> <https://pigeon-poppo.com/lift-theory/>

が分かりやすいでしょう、この方にあつて「いのちの御霊の原理」が働いているので、解放されているのです。今日は、「イエス様を信じたけれども、肉の欲望にいつも囚われてしまっている。」という悩みを抱えている一人一人に、朗報、吉報、良い知らせ、福音です。この「いのちの御霊の原理」をじっくりと学んでいきましょう。

## 2A キリスト・イエスにあるいのち

2 節で大事な言葉は、まず「**キリスト・イエスにあるいのち**」です。私たちが、神の命令を守っているかどうか？という、律法との関係は過ぎ去りました。律法に対しては死んでいるのです。しかし、キリストに結ばれて、この方との関係があり、その関係にいのちがあるのです。パウロは 7 章ですでに、こう言っていました。4 節です、「ですから、私の兄弟たちよ。あなたがたもキリストのからだを通して、律法に対して死んでいるのです。それは、あなたがたがほかの方、すなわち死者の中からよみがえった方のものとなり、こうして私たちが神のために実を結ぶようになるためです。」神から課せられた規則を守るというような生活にはもう死んでいます。そうではなく、キリストと共に罪に対して死んで、キリストと共によみがえった、そのいのちある関係の中で生きています。

## 1B よみがえりのイエス

イエス様は、「ヨハ 10:10 わたしが来たのは、羊たちがいのちを得るため、それも豊かに得るためです。」と言われました。よみがえりのイエス様を信じ、自分の心と生活にお迎えする時に、この方が私たちの内に生きてくださいます。イエス様は、そのことを弟子たちにこう話されました。「ヨハ 14:20 その日には、わたしが父のうちに、あなたがたがわたしのうちに、そしてわたしがあなたがたのうちにいることが、あなたがたに分かります。」これほどの深い交わり、分かち合いをすることができ、事実そうなっているのです。

## 2B 留まることによる実

そこで私たちの務めは、この方に常日頃から心を開き、この方のうちに留まることです。「ヨハ 15:4 わたしにとどまりなさい。わたしもあなたがたの中にとどまります。枝がぶどうの木にとどまっていなければ、自分では実を結ぶことができないのと同じように、あなたがたもわたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。」

この「留まる」というのは、「宿泊する」とも訳すことができます。共に時間を取って、生活をすることです。多くのキリスト者が誤っている考えは、「自分が、きちんと神の命令を守ることができていない。自分はできていない。」ということです。自分が何をしているのか、していないのかに焦点を当てています。けれども、本当の問題は、「イエス様と時間を取っていない。」ということです。良い行いの実を結ぶのは、あくまでもイエス様につながっている、留まっているところから出て来るのであり、留まっていないで、神に求められていることをすることは不可能であります。あくまでも、「**キリスト・イエスにあるいのち**」なのです。

私たちは、どういう関係を持っているかが大事です。主との時間が大事であり、主にある兄弟姉妹と交わることによって、主ご自身との交わりも深められます。いのちを大事にする必要があります。私たちはかつて、カルバリーチャペル所沢が始まる時の、最初の二年間、そこに通っていました。私は、そこで牧者トラビスさんの英語の説教の通訳をする奉仕をしていました。それで、スタッフミーティングを水曜日にやるから来てくれということで、足立区から所沢までの長い距離を通いました。そこで何をするかというと、賛美して祈り、御言葉を分かち合いはしますが、何か会議みたいなことはするのかな？と思いました。ところが、時には銭湯に行き、またある時は食べ放題のお昼を食べました。それで時間が過ぎるのです！私は、勇気を出して、こうやって時間を過ごす意図を問いました。すると、「だって、交わりが大事でしょ？」の一言で終わってしまったのです！はたからは、怠けているみたいに見られてしまうのでは？と心配でしたが、とても大切なことを教えてもらったのです。何をするかではなく、何かをしているのですが、交わりが大事なのです。

イエス様に留まっていることなしに、自分ではできないことも語られていますね。5 節には、「わたしを離れては、あなたがたは何もすることができません。」とあります。この方から離れては、何一つできないということを知る必要があります。いや、そのことを知らせるために、ローマ 7 章にあるような葛藤を敢えてイエス様は通らせるのでしょう。ペテロが、三度、イエス様を知らないと言ってしまったことも、そのことを通らなければ、自分自身に力があるかのように考える間違いをペテロは犯し続けていたことでしょう。すべては神の恵みに拠ることを、知ることはなかったでしょう。

### 3B 御霊によるみことば

そして、イエス様に留まる中で、この方から言葉が与えられます。7 節を見ますと、「あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまっているなら、何でも欲しいものを求めなさい。そうすれば、それはかなえられます。」とあります。イエス様に留まる中で、イエス様のことばを自分に留まらせます。この時に、イエス様のことば、神のことばは、もはや紙に印刷された文字ではなく、生きた神のみことばとして私たちに与えられています。それをしっかり心に抱きしめているなかで、みことばを行い、それで実を結ばせることができます。

イエス様のみことばを聞いている中で、私たちは清められます。「15:3 あなたがたは、わたしがあなたがたに話したことばによって、すでにきよいのです。」そして、「詩 119:9 どのようにして若い人は自分の道を清く保つことができるでしょうか。あなたのみことばのとおり道を守ることです。」とあります。

そして、イエス様は、ご自分のことばを御霊による言葉であると言われている箇所があります。「ヨハ 6:63 いのちを与えるのは御霊です。肉は何の益ももたらしません。わたしがあなたがたに話してきたことばは、霊であり、またいのちです。」私たちがキリストに留まっている時に、言葉が与えられます。そしてことばが与えられている時に、御霊が働いておられます。御霊の力によって、

御霊の導きによって、神のことばを守り行うことができます。エゼキエルもこう預言しました、「エゼ 36:27 わたしの霊をあなたがたのうちに授けて、わたしの掟に従って歩み、わたしの定めを守り行うようにする。」

### 3A 解放を与える原理

#### 1B 罪と死の原理

そして、「いのちの御霊の律法が、罪と死の律法からあなたを解放した」とパウロが言っています。ある牧師は、自分の心が清められた、平安がないと悩んでいた時に、この時制に目が留まりました。「解放した」と完了したものと書いてあるのです。つまり、これは、すでに起こったこと、神がキリストにあって行ってくださったことなのです。私たちが感じる感じないに関わりなく、解放されているのです。先ほど説明したように、すでに空気力学にしたがって、重力に抗って、落ちるものが逆に空中に上昇するように、いのちの御霊の法則が、罪と死の法則から解放しているのです。

ここで大事なのは、罪と死の法則はまぎれもなく存在することです。私たちのからだには、確実に罪の律法、法則は働いています。そして私たちのからだは、確かに死んで滅ぶ存在です。このからで天に入ることはできません。罪と死の原理は働いているのです。しかし、その上にいのちの御霊の原理が働いているのです。つまり、罪はこのからだにあるのですが、御霊によって、肉のからだを神の義のために従わせることができます。そしてこのからだは死に、朽ちるのですが、死んでも生きるように、復活するようにしてくださるのです。罪と死はあるのですが、それに抗い、打ち勝つことができるようにして下さっているのです。

覚えているでしょうか、すでにパウロは 5 章にて、キリストにある勝利を次のように教えていました。「5:17 もし一人の違反により、一人によって死が支配するようになったのなら、なおさらのこと、恵みと義の賜物をあふれるばかり受けている人たちは、一人の人イエス・キリストにより、いのちにあって支配するようになるのです。」アダムにある者は、罪の中におり、死に至るのですが、キリストにある者は、神の恵みを受け、義と認められ、いのちに至るのです。永遠のいのちに至る道を、御霊が助け、導き、支えてくださいます。「Ⅱコリ 3:17-18 主は御霊です。そして、主の御霊がおられるところには自由があります。18 私たちはみな、覆いを取り除かれた顔に、鏡のように主の栄光を映しつつ、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられていきます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。」

#### 2B 肉における神の処罰

7 章でパウロが語っていた肉の弱さについては、神がすでに世話してくださいました。キリストを私たちと同じ肉を持つ存在としてくださって、その肉体において、私たちの罪を処罰してくださいました。「<sup>3</sup> 肉によって弱くなったため、律法にできなくなったことを、神はしてくださいました。神はご自分の御子を、罪深い肉と同じような形で、罪のきよめのために遣わし、肉において罪を処罰され

たのです。」

### 3B 内に満たされる律法の要求

そして、自分と律法との関係について、4 節にとても大切な言葉があります。「それは、肉に従わず御霊に従って歩む私たちのうちに、律法の要求が満たされるためなのです。」ここで、律法の要求が、「私たちのうちに」とありますね。この前置詞が大事なのです、私たちによって律法の要求を満たすのではなく、私たちのうちに律法の要求が満たされたのです。その要求とは、律法の違反に対する死です。イエス様がその肉体において、その死を身に受けてくださったので、律法の要求が満たされたのです。

そのキリストが私たちの内に生きておられます。私たちの内にキリストがおられるということは、キリストが行われたすべてのことが、私たちの内に成就しているということです。私たちが例えば、自動車で交通違反を犯して、何万円かの罰金を支払わないといけません。けれども、代わりに支払ってくださった方がいます。その方がすぐそばにいてくれるのです。そういった状況です。すべての負い目を払ってくださった方が内におられるので、私たちは、律法を完全に満たしたとしてみなされるのです！コロサイ書には、「あなたがたは、キリストにあって満たされているのです。(2:10)」とありますが、ここの「満たされている」は「完全なのです」とも訳せます。

それで、私たちの内には、肉があるけれども、御霊なる神が内におられることによって、この方に導かれることによって、生きることができます。

## 4A 御霊の導き

### 1B 宗教の教え

ここが、キリスト教を他の宗教と根本的に違うようにしています。キリスト教では、ただ、この中に生きていきなさいと教えるだけでなく、その教えに従うことのできる力も与えているということです。この道があると教えるのではなく、「わたしが道である」と言われ、この方を受け入れ生きていく時に、正しい真っ直ぐな道を歩むことができます。そして御霊が、内におられるイエス様との歩みを可能にしてくださっているのです。

仏教では、仏陀の教えにはキリスト教と似通ったものがあります。例えば、解脱というのは、煩惱から解放されることを意味し、涅槃とは、すべての煩惱から解脱した悟りの境地で、迷いや悩みが一切ない安らぎの境地です。これが、肉の欲望から解放され、神の平安を得るのと似ているかもしれませぬ。けれども、仏陀はそれに向かうためのあらゆる教えを垂れました。仏教徒の人たちに、涅槃に達したか尋ねたら、だれ一人達したと答えられないでしょう。けれども、キリスト者はすべて、「全き平安を得ました」と言えるのです。なぜなら、すべての律法の要求を全うされた方が私たちの内におられるからです。

## 2B もうひとりの助け主

イエス様は、ご自分が父なる神の栄光に帰られるので、もうひとりの助け主を遣わす約束をくださいました。「ヨハ 14:16-17 そしてわたしが父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与えくださり、その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにしてください。17 この方は真理の御霊です。世はこの方を見ることも知ることもないので、受け入れることができません。あなたがたは、この方を知っています。この方はあなたがたとともにおられ、また、あなたがたのうちにおられるようになるのです。」この方がおられることによって、イエス様が私たちにおられます。そして、パウロはこれを「栄光の望み」と呼びました。「この奥義とは、あなたがたの中におられるキリスト、栄光の望みのことです。(コロサイ 1:27)」

どうか、御霊の導きがすでにあることを知って、イエス様との歩みが、律法の規定にしたがう歩みよりも、はるかに優れていることを知ることができますように。罪の支配から解放されて、神の恵みによって、義といのちの世界にいるのだと知ることができますように。そして、自分にはない、いや全くできなくなっていることが、キリストが内におられることによって、できるようになっていることを知ることができますように。そうして神に栄光を帰する生活が送れますように。